

Trimble Geomatics Office™

リリースノート

- 製品情報
- 変更事項



バージョン 1.62
改訂版 A
2003 年 7 月

本社

Trimble Navigation Limited
Geomatics and Engineering Division
5475 Kellenburger Road
Dayton, Ohio 45424-1099
U.S.A.
電話: +1-937-233-8921
ファックス: +1-937-233-9441
www.trimble.com

著作権と商標

© 2003, Trimble Navigation Limited. 著作権所有

STL サポートに関してソフトウェアは、Moscow Center for SPARC Technology 改作の SGI Standard Template Library を使用します。© 1994 Hewlett-Packard Company, © 1996, 97 Silicon Graphics Computer Systems, Inc., © 1997 Moscow Center for SPARC Technology

Trimble と Elta は、米国登録商標特許局に登録された Trimble Navigation Limited の登録商標です。

地球儀と三角形のロゴ、DTMLink、Roadlink、Trimble Geomatics Office、Trimble Survey Controller、WAVE は Trimble Navigation Limited の商標です。Survey Pro は Trimble Navigation Limited が完全所有する子会社 Tripod Data Systems Inc. の商標です。Windows は Microsoft Corporation の商標です。その他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

リリースノート

これは、Trimble Geomatics Office リリースノートの 2003 年 7 月 発行版 (改訂版 A) です。Trimble Geomatics Office™ ソフトウェアのバージョン 1.62 に適用します。

ソフトウェアとファームウェアライセンス 有限保証

トリンブル社のソフトウェアと / またはファームウェア製品 (以下、ソフトウェア) は使用ライセンスが発行されたのであって、売却されたものではありません。その使用は (存在する場合) ソフトウェアに含まれる該当最終消費者ライセンス契約 (EULA) の条項によって支配されます。異なる有限保証条件や除外、制限を提示する別の EULA がソフトウェアに含まれている場合を除いては、以下の条件が適用されます。トリンブル社は、この Trimble ソフトウェア製品が配達日から数えて 90 日間はソフトウェアに対 S して発行された仕様書に事実上一致することを保証します。

賠償保証

上記の保証の下でのトリンブル社の単一の責任とあなたの唯一の賠償については、トリンブル社が選択します。トリンブル社の商品返品に関する標準認定手順に従ってトリンブル社にその不良品が返還されてから、この保証に準拠しない製品やソフトウェア (以下、不良品) はすべて交換または修理されるか、またはそのような不良品に対して支払われた購入価格を払い戻します。

保証免責と拒否

こういった保証は以下の出来事においてと次のような範囲内でのみ適用されます。(i) 製品とソフトウェアはトリンブル社の該当オペレータマニュアルや仕様書に従って適切にかつ正しくインストール、設定、インターフェイス、保管、管理、操作されました。かつ (ii) 製品とソフトウェアは改造・誤用されませんでした。下記を原因とする保証違反のあらゆる申し立てに対しては、上記の保証は適用されません。かつトリンブル社はそれに責任を持ちません。(i) トリンブル社が製造、提供、指定したのではない製品や情報、データ、システム、装置と一緒に、製品やソフトウェアを使用またはそれらを結合、(ii) その製品に対するトリンブル社の標準仕様書ではない仕様書の下での、または別の仕様書とそれを合わせての製品やソフトウェアの操作、(iii) 製品やソフトウェアの無認可の改造や使用、(iv) 事故や 落雷、その他の放電、淡水または海水への投入や吹付けによって起きた破損、または (v) 消耗部品 (例、電池) の通常の消耗。

上記の保証は、製品やソフトウェアの性能に関するトリンブル社の全責任、かつ、あなたの唯一の賠償を記しています。この文書内で明白に記されたのでなければ、製品やソフトウェア、それに付随する書類や付録をありのままの状態 で供給され、Trimble Navigation Limited による、またはその製作や製造、インストール、流通に携わった人たちにその明示・黙示保証はどのような形式でも存在することはありません。これには特定目的や名称、非侵害に対する商品性や適合性の黙示保証が含まれますが、それだけに制限されるものではありません。上記の明示保証は、あらゆる製品やソフトウェアに関連する、またはそれから発生したトリンブル社が受け入れる責任や義務のすべてを代行します。州や司法権によっては言外保証の除外や期間制限を許可しないために、上記の除外事項が適用しないこともあります。

Trimble Navigation Limited は、GPS 衛星の操作や操作の失敗、GPS 衛星信号の有効性に関しては責任を持ちません。

責任制限

ここでのあらゆる条項の下でのトリンブル社の全責任は、製品やソフトウェアに対して支払われた代金または 25,000 米ドルのどちらか大きい方を上限とします。適用される法に許される最大範囲までは、トリンブル社とその供給業者は、製品やソフトウェア、それに付随する書類や付録に何らかの形で関係する状況や法的論理下でのあらゆる間接、特別、付随的または結果的損害に対する責任を負いません。(これには、事業利益の損失や事業の中断、事業情報の損失、その他のあらゆる財政上の損失に対する損害が無制限で含まれます。) それは、トリンブル社がそのような損失の可能性を示唆したかどうかや、あなたとトリンブル社との間で進展中か進展した取引の経過に影響を受けることはありません。付随的または結果的損害に対する責任の制限や除外を許可しない州や司法権があるので、上記の除外事項はあなたに適用しないかもしれません。

製品情報

Trimble Geomatics Office™ バージョン 1.62 ソフトウェアはイタリア語サポートを付加する目的でリリースされました。ソフトウェアの機能と特徴は、Trimble Geomatics Office バージョン 1.61 とすべて同一です。

このセクションでは、バージョン 1.6 に対応して「Trimble Geomatics Office ユーザーガイド」が発行されて以来、Trimble Geomatics Office™ ソフトウェアに加えられた変更に関する詳細を説明します。

コンピュータハードウェア・ソフトウェアの必要条件

表 1.1 は、Trimble Geomatics Office 1.62 を問題なくインストールかつ使用するための必要条件を示しています。

表 1.1 ハードウェアとソフトウェアの必要条件

部品	最低条件	推奨条件
CPU	Pentium 150 MHz	Pentium 266 MHz
RAM	32 MB	128 MB
ハードドライブ	典型的インストールには 317 MB 必要	
モニター	SVGA カラー 800 x 600	XGA カラー 1024 x 768
ポート	RS232 ポート (16550 UART) 1 つ	
データドライブ	CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブ	
入力装置	マウスまたはトラックボールと、キーボード	キーボードと Microsoft IntelliMouse

表 1.1 ハードウェアとソフトウェアの必要条件 (続き)

部品	最低条件	推奨条件
ソフトウェア	下記の Microsoft® オペレーティングシステムのどれか <ul style="list-style-type: none"> • Windows® 98 • Windows Me • Windows NT 4.0 以降 • Windows 2000 • Windows XP 	下記の Microsoft® オペレーティングシステムのどれか <ul style="list-style-type: none"> • Windows 98 • Windows Me • Windows NT 4.0 以降 • Windows 2000 • Windows XP
	ウェブブラウザ (HTMLビューア)	Microsoft Access 2000 Microsoft Internet Explorer 5.0 以降

ソフトウェアのインストール

Trimble Geomatics Office バージョン 1.62 ソフトウェアをインストールする前に、コンピュータから Trimble Geomatics Office 1.5 ソフトウェア (デモ版を含む) をアンインストールしてください。バージョン 1.5 ソフトウェアでカスタマイズした情報を続けて使用できるようにするにはバージョン 1.5 ソフトウェアをアップグレードします。その方法に関しては次のセクションを参考にしてください。

メモ - Microsoft Windows NT や Windows 2000、Windows XP にソフトウェアをインストールするには、**管理者権**が必要です。

Trimble Geomatics Office 1.5 または 1.0 からのアップグレード

Trimble Geomatics Office 1.5 (または 1.0) からアップグレードするとき、ソフトウェアは先ずコンピュータのどこに古いバージョンがあるのかを検索します。それが見つかり、ソフトウェアは新しいバージョンをインストールします。

Trimble Geomatics Office バージョン 1.5 (または 1.0) が別のコンピュータにインストールされている場合には、Trimble Geomatics Office の前のバージョンのシリアルナンバーとキーを入力する必要があります。WAVE™ 基線解析モジュールと網平均モジュールも購入されている場合には、そのモジュールキーも入力する必要があります。

WAVE 基線解析と網平均モジュールのインストール

Trimble Geomatics Office と一緒に WAVE 基線解析モジュールまたは網平均モジュールを購入された場合には、該当フィールドに承認キーを入力してください。

Trimble Geomatics Office を購入・インストールした後で WAVE 基線解析や網平均モジュールを購入した場合には、*Trimble Geomatics Office* ソフトウェア CD を再度実行します。Trimble Geomatics Office の再インストール、または単純にモジュール追加を行います。

インストールに関して

このセクションでは、Trimble Geomatics Office のインストールに関するいくつかの重要なポイントを概説します。

- Microsoft Windows 2000 または XP において
管理者権を持つ人が特徴・属性エディタや RoadLink™、DTMLink™ ユーティリティを最初に使用するまでは、他の人はそれらを使用できません。
- ネットワークにおいて
必要とされる許可を持つ場合に限り Trimble Geomatics Office をネットワークドライブにインストールできます。しかし Trimble Geomatics Office は、それがインストールされているコンピュータ上でしか正しく作動しません。
- 複数のユーザー
Trimble Geomatics Office は、マルチユーザーに対するインストールをサポートしません。

Trimble Survey Controller ソフトウェアのインストール

Trimble Survey Controller™ ソフトウェア CD を実行する前に Trimble Geomatics Office をインストールする必要があります。

Trimble Geomatics Office のアップグレード

Trimble Geomatics Office の以前のバージョンからアップグレードするとき、ソフトウェアの古いバージョンをアンインストールせずにアップグレードを行うと、ファイルのいくつかは自動的にバックアップされます。

次のファイルは「*.bak」と名前が変更されます。

- **Current.csd**
- **Antenna.ini**
- **Receiver.ini**

次のファイルは、Program Files\Trimble\Trimble Geomatics Office\System\BackedBy162 ディレクトリにコピーされます。

- **Symbols.sym**
- **LineStyle.ltp**
- **AsciiRpt.dat**
- **AsciiImp.dat**
- **AsciiExp.dat**

標準プロジェクトテンプレートは、Program Files\Trimble\Trimble Geomatics Office\Template\BackedBy162 ディレクトリにコピーされます。

Trimble Geomatics Office の古いバージョンでカスタマイズした情報の使用に関しては、次のセクションを参照してください。

Trimble Geomatics Office バージョン 1.5 でカスタマイズした情報を使用するには

Trimble Geomatics Office 1.5 でカスタマイズした以下のファイルをバージョン 1.62 でも使用できます。

- .frm - 平面図フォーム定義
- .fcl - 特徴・属性ライブラリ
- Current.csd - 現存とユーザー定義の座標系を含む座標系データベース (サイトと測地系変換、楕円体、ジオイドモデルを含む)
- Symbol.sym - 記号ライブラリ
- Linetype.ltp - ラインタイプライブラリ

Trimble Geomatics Office 1.6 においてデータベースの表と列の構造 (スキーマファイル) が変更されたので、バージョン 1.62 は以下のバージョン 1.5 ファイルをサポートしません。

- ASCIIrpt.dat - レポートフォーマットファイル
- ASCIIimp.dat - ASCII インポート定義ファイル
- ASCIIexp.dat - ASCII エクスポート定義ファイル
- ¥Templates¥<Template>¥*.* - プロジェクトテンプレート
- MS Access レポート - Microsoft Access で定義したデータベースレポート

バージョン 1.5 の ASCIIrpt.dat や ASCIIimp.dat、ASCIIexp.dat ファイルをバージョン 1.62 で使用できないことがあります。しかし、バージョン 1.5 ファイルで定義したフォーマットのいくつかは Trimble Geomatics Office 1.62 と互換性を持ちます。そういったフォーマットをバージョン 1.62 で使用するには、

1. ファイル / インポート を選択します。インポート ダイアログが現れます。
2. カスタム タブで、新しいフォーマット を選択します。ASCII インポートフォーマット定義ダイアログが現れます。

3. テキストエディタで、バージョン 1.5 の ASCIIimp.dat ファイルを開きます。
4. Trimble Geomatics Office の *ASCII* インポートフォーマット定義ダイアログ（本文フォーマット セクション）に適切なファイルフォーマットをコピーします。
5. カスタムフォーマットで参照したフィールドコードが Trimble Geomatics Office のデータベースに存在しない場合には、右クリックしてショートカットメニューにアクセスし、適切なフィールドを選択します。
6. **OK** をクリックします。

これで、Trimble Geomatics Office 1.62 の ASCIIimp.dat ファイルでカスタムフォーマットが定義されました。

警告 – カスタムレポートやエクスポートフォーマットでも同じ手順に従います。しかしその手順に従わず ASCIIimp.dat や ASCIIrpt.dat、ASCIIexp.dat ファイルを Trimble Geomatics Office システムディレクトリに直接コピーしてしまうと、それは Trimble Geomatics Office のカスタムフォーマットを上書きしてしまいます。

これによって、

- ソフトウェアはカスタムフォーマットを正しいタブに書き込まなくなります。
 - データベースの表と列の構造が異なるためにカスタムフォーマットを利用できないことがあります。
 - Trimble Geomatics Office のインストールに含まれていた新しいカスタムフォーマットを失います。
-

Trimble Geomatics Office バージョン 1.6 でカスタマイズした情報を使用するには

Trimble Geomatics Office バージョン 1.6 でカスタマイズした以下のファイルをバージョン 1.62 でも使用できます。

- *.frm – 平面図フォーム定義
- *.fcl – 特徴・属性ライブラリ

- Current.csd – 現存とユーザー定義の座標系を含む座標系データベース（サイトと測地系変換、楕円体、ジオイドモデルを含む）
- Symbol.sym – 記号ライブラリ
- Linetype.ltp – ラインタイプライブラリ

変更されたファイル

以下のファイルは Trimble Geomatics Office バージョン 1.62 で更新されました。

- ASCIIrpt.dat – レポートフォーマットファイル
- ASCIIimp.dat – ASCII インポート定義ファイル
- ASCIIexp.dat – ASCII エクスポート定義ファイル

バージョン 1.6 の ASCIIrpt.dat や ASCIIimp.dat、ASCIIexp.dat ファイルをバージョン 1.62 で使用できないことがあります。しかし、バージョン 1.6 ファイルで定義したフォーマットのいくつかは Trimble Geomatics Office 1.62 と互換性があるかもしれません。

バージョン 1.6 の ASCIIimp.dat フォーマットをバージョン 1.62 で使用するには、

1. ファイル/インポートを選択します。インポートダイアログが現れます。
2. カスタムタブで、新しいフォーマットを選択します。ASCII インポートフォーマット定義ダイアログが現れます。
3. テキストエディタでバージョン 1.6 の ASCIIimp.dat ファイルを開きます。
4. Trimble Geomatics Office の ASCII インポートフォーマット定義ダイアログ（本文フォーマットセクション）に適切なファイルフォーマットをコピーします。

5. カスタムフォーマットで参照したフィールドコードが Trimble Geomatics Office のデータベースに存在しない場合には、右クリックしてショートカットメニューにアクセスし、適切なフィールドを選択します。
6. **OK** をクリックします。

これで、Trimble Geomatics Office 1.62 の ASCIIimp.dat ファイルでカスタムフォーマットが定義されました。

バージョン 1.62 でバージョン 1.6 の ASCIIrpt.dat (カスタムレポート) や ASCIIexp.dat (カスタムエクスポート) フォーマットを使用するには、同じ手順に従います。

C

警告 — カスタムレポートやエクスポートフォーマットでも同じ手順に従います。しかしその手順に従わず ASCIIimp.dat や ASCIIrpt.dat 、 ASCIIexp.dat ファイルを Trimble Geomatics Office システムディレクトリに直接コピーしてしまうと、それは Trimble Geomatics Office のカスタムフォーマットを上書きしてしまいます。

これによって、

- ソフトウェアはカスタムフォーマットを正しいタブに書き込まなくなります。
 - データベースの表と列の構造が異なるためにカスタムフォーマットを利用できないことがあります。
 - Trimble Geomatics Office のインストールに含まれていた新しいカスタムフォーマットを失います。
-

Survey Pro ソフトウェア サポート

この情報は、TDS Ranger 携帯端末が実行する TDS Survey Pro™ と、Trimble TSCe コントローラが実行する Trimble Survey Pro に関するものです。Trimble Geomatics Office と Survey Pro ソフトウェアとの間には以下のようなサポート問題が存在します。

- 杭打ち記録

Trimble Geomatics Office は TDS Survey Pro バージョン 3.5. ソフトウェアからの「杭からライン」または「杭からDTM」記録をサポートしません。

- テンプレート補間の違い

中間ステーションを杭打ちする予定がある場合には、異なる横断勾配またはオフセットを持つ隣接する関連テンプレート要素を補間する必要があります。Trimble RoadLink から TDS Ranger 携帯端末、または Trimble 3600/5600 TDS 機器にエクスポートされた道路定義は、RoadLink や Trimble Survey Controller で提示されたものとは異なる様式で TDS 製品内で補間されます。RoadLink と Trimble Survey Controller が使用するテンプレート補間方法が TDS 製品が使用するものとは異なるためにこの違いが起きます。

例えば、一定の断面勾配を持つ道路において、0.0 ステーションのテンプレート要素は 5m のオフセットに対して -5% の横断勾配を持つものに対して、それに対応する 50.0 ステーションのテンプレート要素は 10m のオフセットに対して -10% の横断勾配を持つとします。

TDS 製品は、ステーション 25.0 での横断勾配を -7.5% と算出します。それは、隣接ステーションの -5% と -10% の数値の補間差です。

RoadLink と Trimble Survey Controller はステーション 0.0 のテンプレート要素の外側の端から、ステーション 50.0 の外側の端まで一定の勾配を保持します。これによって、ステーション 25.0 の標高はステーション 0.0 とステーション 50.0 の対応位置の数値の補間差となります。この補間された標高を使用して算出されるステーション 25.0 の横断勾配は、-8.333% です。

Trimble 3300/3600/5600 Elta サポート

このセクションでは、Trimble Geomatics Office と Trimble 3300/3600/5600 Elta[®] 機器の間に存在する以下のようなサポート問題に関して説明します。

- トラバースサイドショット

トラバースを実行中にサイドショットを測定する場合には、絶対角度を保存するように 3600 Elta と 5600 Elta 機器

を設定 (メニュー 9135) してください。トラバース実行中に方向付けられた角度を保存する場合、Trimble Geomatics Office はサイドショットをインポートしません。

- **ステーションニング**

ステーションニングからの各ローカル縮尺係数は Trimble Geomatics Office にインポートされ、そのステーションから観測されたすべての距離に適用されます。

- **機器の設定**

下記の装置を使用している場合、現在の設定を機器に保存するように促されたときには常にそれを行うようにしてください。

機器	一番古いバージョン
3300DR	5.62
3600 Elta	1.15
5600 Elta	1.41

この設定は、メニュー 51(3300 DR) またはメニュー 917(3600 Elta と 5600 Elta) でオンにすることができます。

- **ヌルポイント名**

3600 Elta または 5600 Elta M5 ファイルを Trimble Geomatics Office にインポートするときにはヌルポイント名を使用しないようにしてください。

VRS サポート

ポイント詳細レポートが新たに追加されました。それは、ポジション解情報を提示します。このレポートを利用して、VRS データを表示します。

レポートを開くには、メインメニューから、**レポート / 追加レポート / ポイント詳細** を表示します。

新しいソフトウェアの特徴

RoadLink で使用するために横断面を Autodesk からエクスポート

Trimble RoadLink ソフトウェアで道路定義が正しく示されていることを確実にするためには、重要なステーションでの横断面を数多くエクスポートする必要があります。

追加の横断面を指定するには、

1. *Cross Sections / Existing Ground - Sample From Surface* を選択します。
2. *Section Sampling Settings* ダイアログで *Add specific stations* を選択します。

メモ – *Projects / Edit Drawing Settings* オプションで *Section Sampling Settings* を設定した場合には、*Cross Sections / Existing Ground - Sample From Surface* オプションから横断面を再生成する必要があります。

投影グリッドとシフトグリッドに対するサポート

Trimble Geomatics Office バージョン 1.62 は、投影グリッドをサポートします。投影グリッドは現在マレーシアの Malaysian Cassini State Plane 座標系が使用します。

バージョン 1.62 は、シフトグリッドもサポートします。シフトグリッドは現在オランダの Royal Dutch (RD) Stereographic 座標系が使用します。

投影グリッドとシフトグリッドは、Trimble Survey Controller バージョン 10.7 でもサポートされます。Trimble Data Transfer (データ転送) ユーティリティを使用することで、投影グリッドやシフトグリッドを Trimble Geomatics Office バージョン 1.62 と、Trimble Survey Controller バージョン 10.7 ソフトウェアを実行している Trimble® コントローラ間で転送できます。

メモー Trimble Geomatics Office 1.62 を使用して座標系内で定義した投影グリッドやシフトグリッドがプロジェクトに含まれる場合、Trimble Geomatics Office 1.6 でそのプロジェクトを開くことはできません。

改良された SDR33 ファイルのエクスポート

US フィートや国際フィートを使用する SDR33 ファイルを Trimble Geomatics Office 1.62 からエクスポートするとき、エクスポートされたファイルに正しい単位が書き込まれるようになりました。

改良された DXF ファイルサポート

背景地図としての DXF ファイル使用や、Trimble Geomatics Office プロジェクトへの DXF ファイルのインポートを問題なく実行できるようになりました。

カナダ ジオイドモデル

カナダのジオイドモデル HT2_0 を Trimble Geomatics Office で使用できるようになりました。ファイルは下記からダウンロードできます。

http://www.trimble.com/geomaticsoffice_ts.asp?Nav=Collection-71.

HT2_0.byn ファイルを必要な .ggf フォーマットに変換する方法に関しては、*readme.txt* ファイルを参照してください。

そのファイルは、Trimble Geomatics Office バージョン 1.62 ソフトウェア CD の「その他のファイルとユーティリティ ¥¥ ジオイドモデル ¥」ファイルにも含まれています。

イタリア語サポート

Trimble Geomatics Office 1.62 をイタリア語でもご利用いただけるようになりました。

変更事項

Trimble Geomatics Office 1.6 ヘルプを以下のように変更してください。

項目	セクション	変更事項
グローバルタブ	高度なスタイルダイアログの編集 <i>g</i>	追加事項 アンテナモデル このフィールドを使用して、Trimble または NGS、IFE アンテナモデルを選択します。 IFE モデルは、Trimble モデルや NGS モデルが使用するデフォレンシヤル方法とは異なる方法を使用する Institute for Geodesy によって開発されました。 このメモ項目を削除してください。
標準投影 (横メルカトル) ダイアログ	メモ: 南方位角システム (必要な場合) と正の座標方向を指定する必要もあります。Trimble Geomatics Office ソフトウェアはそれらのフィールドを自動的に更新しません。	

